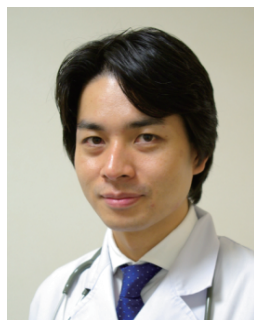


# 大腸の病気の検査法

(便潜血検査と)

大腸内視鏡検査の話



消化器内科  
田村クリニック  
町田駅前めぐみクリニック

かわせ なおと  
川瀬 直登

日本内科学会 認定内科医  
日本内科学会 総合内科専門医  
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医  
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医

大腸がんの集団検診として便潜血検査が広く行われています。検査用のキットでごく少量の便を採取して提出してもらった検査で健康診断の一項目となっていることが多く、健康診断の機会のない場合でも40歳以上の方は市や区の検診を申し込んで受けることができます。この検査は文字通り便の中にヒトの血液が潜んでいないかを確認する検査です。

通常、便に血液が混入することはありませんが、大腸がんのような出血しやすい病変があると見えないくらい少量であっても血液が検出され検査に引っかかります。この方法では痔やがんではないポリープでも引っかかることもありますが、この検査に引っかかると大腸内視鏡検査がすすめられます。

下剤をかけて細長いカメラで大腸内を観察する検査ですが検査は痛いとか苦しむという噂もあって、「もう一度便潜血検査をしたらよいのではないか?」「もともと痔が出血することがあるから大腸は検査しなくて良いのではないか?」と質問を受けることがあります。

しかし、便潜血検査は病気があっても陽性とならないことがあり、病気がないことを判定できませんので再検査をする意味はありません。また大腸がんなどの病気は初期には症状がほとんど無く、痔の出血と思っていたものが肛門付近にできたがんが原因であることもありしますので検査をしっかり受けておかれることがすすめられます。

大腸内視鏡検査の苦痛には腹部の手術の影響などで個人差があり、検査医の検査の進め方によっても差があります。鎮静薬を使用するなどの苦痛を緩和する工夫もあり、ほとんどの人は大きな苦痛はなく検査ができますので、大腸の検査をすすめられた方や便に血が混じる症状など大腸の病気に不安のある方はまず相談されることをおすすめします。